

学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第2編（各教科）

保健体育

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 2～7)

事例1 キーワード 「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価

科目 体育 単元 陸上競技（ハードル） 入学年次

本事例は、陸上競技（ハードル）における、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点別学習状況の評価事例である。生徒自身が「自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法について考え、他者に伝えること」や「課題の解決に応じた練習方法を選択し、ハードルの学習に自主的に取り組むこと」ができるよう、ICTや学習カードを活用した指導と評価の工夫をしている。特に「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、単元の学習を通じて繰り返し粘り強く学習に取り組んでいたかを判断できるよう学習カードに自己評価とその理由を記載させる例を取り上げた。

(P. 8～13)

事例2 キーワード 「思考・判断・表現」の評価

科目 体育 単元 球技（ゴール型：バスケットボール） 入学年次

本事例は、「思考・判断・表現」の評価について、習得した知識を活用し、空間を作りだすなどの動きについてチームの課題を発見し、課題を解決するために必要な練習方法を考える際の、ワークシートの工夫や評価方法の工夫などについて具体例を示している。

(P. 14～18)

事例3 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

科目 保健 単元 健康の考え方

本事例は、単元「健康の考え方」（全3時間）の指導と評価の計画から評価の総括について示している。単元の目標に基づく評価規準の示し方から指導と評価の計画、観点別学習状況の評価の実際及び評価結果の総括までの一連の流れについて具体的に示している。

保健体育科（科目体育） 事例 1

キーワード 「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名

陸上競技（ハードル）

入学年次

内容のまとめり

入学年次

「C 陸上競技」

1 単元の見目標

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目の技能を身に付けることができるようにする。
 - ・ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができるようにする。
- (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするこ、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするこなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

2 単元の評価規準

知識	技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①陸上競技で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・技術と関連させた運動や練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることを言ったり書き出したりしている。</p> <p>②自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることを言ったり書き出したりしている。</p>	<p>①ハードル走では、ハードルを低く素早く越えながら、インターバルをリズムカルにスピードを維持して走り、タイムを短縮したり、競走したりできる。</p>	<p>①ハードル走について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</p> <p>②自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>・ハードル走に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶことができる。</p> <p>・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法について振り返っている。</p>	<p>①ハードル走の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</p> <p>・仲間と互いに合意した自己の役割を果たそうとしている。</p> <p>・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p> <p>②健康・安全を確保している。</p>

※ ○囲み数字は、当該単元の評価規準を示している。

3 指導と評価の計画

単元の目標												授業づくりのポイント
知識及び技能	次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目の技能を身に付けることができるようにする。 ・ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができるようにする。											・3つの資質・能力の内容をバランスよく配置する。
思考力、判断力、表現力等	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。											・主体的な学習を行うことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。											・様々な違いに応じた課題や挑戦などを尊重できるようにする。
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	健康観察 ・ 準備運動 ・ 本時の目標 ・ 内容等の確認										競技会
	10	動きづくり（ハードルまたぎ越し・歩きながらのハードリング）										
	20	○ハードリング動作の練習Ⅰ ・リード脚の振り上げ方 ・上体の使い方 ・抜き足の動かし方 ・腕の使い方	○ハードリング動作の練習Ⅱ ・1台目までの走り方 ・インターバルの走り方 ・遠くからの踏切	○記録の測定Ⅰ ・自分に合ったインターバルを選んで走る ※ベアを作り動画を撮影	○改善すべきポイントについての検討（ベア） ※撮影した動画を利用	○記録の測定Ⅱ ・自分に合ったインターバルを選んで走る ※ベアを作り動画を撮影	○技術的な課題や有効な練習方法についての検討（ベア） ※動画を利用					
	30	○試しのハードル走Ⅰ ・練習したことを意識して走る ・インターバルを広くとり、歩数を意識しない	○試しのハードル走Ⅱ ・練習したことを意識して走る ・インターバルを3歩または5歩で走れるようにする	○記録向上につながるポイントの確認（個人） ※撮影した動画を利用	○技術的な課題の発見（個人） ※撮影した動画を利用							
	40	2時間目・4時間目に知識①に関する学習の機会を設けることで、6時間目の記録向上につながるポイントの確認や7校時目の改善すべきポイントの検討およびそれらの評価につながるよう工夫する。										
50	整理運動 ・ 本時の振り返り ・ 次時の確認											
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
評価機会	知		①		①	①		②			総括的な評価 観察 学習カード	
	技	自主的に授業に取り組めたかについて、毎時自己評価を記入するよう指示し、観察だけでは見取れない部分を補う。										
	思						①	②	②	②		
単元の評価規準	知	7校時目・8校時目に思考・判断・表現①に関する学習の機会を設けることで9時間目の評価につなげる。また、課題解決に有効な練習方法の選択は、自主的な取り組みとも関わりがあることを説明し、主体的に学習に取り組む態度①の評価にもつなげる。										
技	①陸上競技で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ②自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることを言ったり書き出したりしている。											
思	①ハードル走について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ②自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。											
態	①ハードル走の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②健康・安全を確保している。											

4 指導と評価の授業展開例 (本時の指導 陸上競技 (ハードル走) 9 / 10時間)

(1) 題材名 「ハードル走における課題解決に有効な練習の選択と自主的な取組」

(2) 本時のねらい

- ① 前時の記録測定を撮影した動画を基に自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法について考え、他者に伝える。
- ② 課題の解決に応じた練習方法を選択し、ハードルの学習に自主的に取り組む。

(3) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足 (A)	努力を要する (C)
思考・判断・表現	自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。	合理的な動きと自己や仲間の動きを比較し、技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。	課題発見の参考となる動画を使ってこれまでに学習した知識や技能を説明し、自己や仲間の動きを比較したり成果や改善すべきポイントを発見したりできるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	ハードル走の学習に自主的に取り組もうとしている。	適切な練習方法を選択し、ハードル走の学習に自主的に取り組もうとしている。	技術的につまづいている点がないか確認し、繰り返し声掛けをしながら自主的な取組を促す。

(4) 学習指導上の工夫

- ① 前時の記録測定の際にタブレット型PCによって撮影した動画を用い、自己や仲間の技術的な課題を発見しやすくする。なお、時間を有効に活用するために、発見の参考となる動画は事前に配信しておくとともに、あらかじめ前時内で自己の課題等について考えさせておく。前時の簡易ゲームを撮影した動画を用いて、チームの課題を発見できるようにする。
- ② インターバルの違うレーンを複数準備したり、振り上げ足や抜き足の練習がしやすいよう横木が外れるハードルを準備するなどして、生徒が課題に応じた練習ができるようにする。
- ③ 観察による評価を記録する際の間違いを防ぐために、全員に番号の付いたビブスを着用させる。

(5) 準備物

学習カード 筆記用具 ハードル ラインカー メジャー タブレット型PC

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問	形態	指導上の留意点	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○集合 整列 ○挨拶・出席確認・健康観察 ○本時のねらい, 学習内容の確認 ○準備運動, 補強運動 ランニング 体操 ストレッチ ハードルまたぎ越し 歩きながらのハードリング 	<p>一斉</p> <p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業開始までに用具の準備を終える。 ○足にけがをしている生徒がいないか特に注意する。 ○前時で撮影し, 確認した動画をもとに自分や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法を適切に選択すること, 自主的に練習することが本時のねらいであることを伝える。 ○自主的な取組を評価する際の間違いを防ぐためにビブスを着用することを伝え, 配布する。 ○体ほぐし運動の要素を取り入れる。 	
展開	<p>【活動Ⅰ】タブレット型PCを用いた課題の発見</p> <p>○前時で組んだペアに分かれ, 撮影した動画を基に相手と仲間の課題を発見する (10分)</p> <p>【活動Ⅱ】各自の課題を解決するための練習</p> <p>○以下のような練習環境を整え, それぞれの課題に応じた練習ができるようにする (20分)</p>	<p>ペア</p> <p>ペア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○参考として配信された動画をもとに相手と自分の動画を比較させ, 自分や仲間の技術的な課題を発見させる。 ○発見した課題の解決に有効な練習方法を理由と共に学習カードに記入させ, お互いに伝え合うよう指導する。 ○技術を習得するためには, 適切な練習方法を選択しながら, 自主的に繰り返し粘り強く取り組む必要があることを説明する。 	<p>【評価】 思考・判断・表現 (学習カード)</p> <p>【評価】 態度 (観察)</p>

展 開	<p>ハードル設置例</p> <p>ゴール (50m)</p> <p>このレーンは横木の外れるハードルを使用する</p> <p>スタート</p> <p>6 m 7 m 8 m インターバル</p>		<p>○タブレット型PCを用いてお互いの動きを撮影しながら練習してもよいことを伝える。</p>	
	<p>ま と め</p> <p>○整理運動・用具の片付け ○本時のまとめ 学習ノートの整理 ○次時の連絡</p>		<p>○けががないか十分に確認させる。 ○自主的に学習に取り組めたか自己評価させる。</p>	<p>【評価】 態度 (学習カード)</p>

(7) 板書計画 (特になし)

(8) 学習カード

時	日付	今日の授業を振り返って	
1		健康・安全についての説明を聞いて	
		自己評価 (自主的に取り組めたか)	自己評価の理由
		1 2 3 4	
2		技術について学んだこと	
		自己評価 (自主的に取り組めたか)	自己評価の理由
		1 2 3 4	
3		練習で主に意識したこと	
		自己評価 (自主的に取り組めたか)	自己評価の理由
		1 2 3 4	
4		技術について学んだこと	
		自己評価 (自主的に取り組めたか)	自己評価の理由
		1 2 3 4	
5		練習で主に意識したこと	
		自己評価 (自主的に取り組めたか)	自己評価の理由
		1 2 3 4	
6		自分の動画を見て (自分の記録の向上に必要な技術とその理由)	
		自己評価 (自主的に取り組めたか)	自己評価の理由
		1 2 3 4	

時	日付	今日の授業を振り返って	
7		仲間の動画をみて (良い点や改善のポイントとその理由)	
		良い点	
		改善のポイント	理由
		自己評価 (自主的に取り組めたか)	自己評価の理由
8		自分の動画を見て (技術的な課題と必要な練習を具体的に記入)	
		技術的な課題	必要な練習
		タブレット型PCを使った学習の利点について	
		自己評価 (自主的に取り組めたか)	自己評価の理由
9		仲間の動画を見て (技術的な課題と必要な練習を具体的に記入→仲間へアドバイスを)	
		技術的な課題	必要な練習
		仲間のアドバイスを受け実際に取り組んだ練習とその結果	
		取り組んだ練習	結果
10		競技会を終えて	
		自己評価 (自主的に取り組めたか)	自己評価の理由
		1 2 3 4	

記入例

時	日付	今日の授業を振り返って	
7		仲間の動画を見て（良い点や改善のポイントとその理由）	
		良い点	
		改善のポイント	理由
		自己評価（自主的に取り組めたか）	自己評価の理由
		1 2 3 4	
8		自分の動画を見て（技術的な課題と必要な練習を具体的に記入）	
		技術的な課題	必要な練習
		タブレット型PCを使った学習の利点について	
		自己評価（自主的に取り組めたか）	自己評価の理由
		1 2 3 4	
9		仲間の動画を見て（技術的な課題と必要な練習を具体的に記入→仲間にアドバイスをする）	
		技術的な課題	必要な練習
		仲間のアドバイスを受け実際に取り組んだ練習とその結果	
		取り組んだ練習	結果
		速くから踏み切る練習	ハードルを低く跳び越すことができるようになった。
		8mのインターバルで走る練習	スピードに乗ってハードルを越せるようになった。
自己評価（自主的に取り組めたか）	自己評価の理由		
1 2 3 4	技術的な課題を克服するために、自分で選んだ練習に対して繰り返し取り組むことができた。		
10		競技会を終えて	
		自己評価（自主的に取り組めたか）	主体的に学習に取り組む態度①の評価に関して、観察による評価が良好であったことを前提に評価をAと判断する記入例。自己評価の記載状況や適切な練習方法を選択し粘り強く取り組んでいると判断される記載内容であるかを重視した。
		1 2 3 4	

保健体育科（科目体育） 事例2
キーワード 「思考・判断・表現」の評価

単元名
球技（ゴール型：バスケットボール）
入学年次

内容のまとめり
入学年次
「E 球技」

1 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。
- ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能

○知識

- ① 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて言ったり書き出したりしている。
- ・ 戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて言ったり書き出したりしている。
 - ・ ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力が高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。
- ② 練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。

○技能

〈安定したボール操作〉

- ① ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。
- ② 味方が操作しやすいパスを送ることができる。
- ・ 守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすることができる。

〈空間を作り出すなどの動き〉

- ・ ゴール前に広い空間を作り出すために、進行方向から離れることができる。
 - ・ パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。
- ① ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れることができる。
- ・ ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。
 - ・ ゴール前の空いている場所をカバーすることができる。

思考・判断・表現

- ・ 選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。
- ① 自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。
 - ・ 選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶことができる。
 - ・ 健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。
 - ・ ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。
 - ・ チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。
 - ・ 作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。
 - ② 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。
 - ・ 球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する・見る・支える・知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。

主体的に学習に取り組む態度

- ・ 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。
- ① 相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。
 - ・ 作戦などについての話合いに貢献しようとしている。
 - ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。
 - ② 互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。
 - ③ 健康・安全を確保している。

※ ○囲み数字は、当該単元の評価規準を示している。

3 指導と評価の計画

単元の目標	知識及び技能		時												授業づくりのポイント
	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。	健康観察・準備運動・本時の目標・内容等の確認												・三つの資質・能力の内容をバランスよく配置する。
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>オリエンテーション</p> <p>○安定したボール操作 ・パス チェスト バウンド オーバーヘッド</p> <p>・ドリブル 直線 ジグザグ ドリブルタッグ</p> <p>・シュート セット レイアップ</p> </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>○安定したボール操作 パス・ドリブル・シュートの反復練習</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>○空間を作りだすなどの動き チーム練習</p> <p>ハーフコート ・数的有利の攻防 2 (OF) 対 1 (DF) 3 (OF) 対 2 (DF) ・スクリーンプレイ 3 対 3</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>課題の確認と解決練習</p> <p>○空間を作りだすなどの動き</p> <p>チーム練習</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>チーム練習</p> <p>課題の確認と解決練習</p> <p>○空間を作りだすなどの動き</p> <p>チーム練習</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>作戦会議</p> <p>・リーグ戦</p> </div> </div>												・空間を作りだす等の動きをテーマに課題を追求しやすいよう、プレイヤーの人数、コート広さを工夫したゲームを取り入れる。
	学びに向かう力、人間性等	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>ボール慣れ</p> <p>・実態把握 試しのゲーム 5 対 5</p> </div> <div style="width: 40%;"> <p>・簡易ゲーム オールコート 3 (OF) 対 2 (DF) ハーフコート 3 対 3</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>・簡易ゲーム オールコート 5 対 5</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>チーム練習</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>チーム練習</p> </div> </div>												・ICTの活用 動画を撮影し、自己や仲間の動きを見ながら、修正点や課題を伝えたり、気付かせたり、また、課題を解決するために必要な練習を考えさせるようにする。
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	授業づくりのポイント	
	学習の流れ	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>「努力を要する」状況(C)と判断される生徒いた場合には、個別の指導を行う手立てを行い、その生徒の学習状況の変化を12時間目に最終確認をする。</p> </div> <div style="width: 40%;"> <p>4時間目に技術的なポイント「知識①」の学習機会を設け、練習場面を5時間目に設定した上で6時間目に「技能③」の評価を行う。さらに発見した課題について、8時間目に空間を作りだす等の動きをテーマとした課題解決の時間を設け、知識や技能を活用して「思考力、判断力、表現力等」の学習評価につなげることができるよう、工夫する。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>単元のまとめ</p> </div> </div>													
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	授業づくりのポイント		
評価機会	知		(1)		①			②					総合的な評価	学習カード	
	技					③			②		①			観察 学習カード	
	思			②				①						観察	
	態	③				①				②					
単元の評価規準	知	<p>①球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。</p>													
	技	<p>①ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。</p> <p>②味方が操作しやすいパスを送ることができる。</p> <p>③ボール保持者が進行できる空間を作りだすために、進行方向から離れることができる。</p>													
	思	<p>①自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>②体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</p>													
	態	<p>①相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。</p> <p>②互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</p> <p>③健康・安全を確保している。</p>													

4 指導と評価の授業展開例 (本時の指導 球技 (ゴール型) バasketボール 8 / 12 時間)

(1) 題材名 「空間を作り出すなどの動きに必要な課題の発見と課題解決練習の選択」

(2) 本時のねらい

空間を作り出すなどの動きについてチームの課題を発見し、課題を解決するために必要な練習方法を考え、他者に伝えることができるようにする。

(3) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足 (A)	努力を要する (C)
思考・判断・表現	自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。	自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを適切に伝えている。	運動観察がうまくできない場合は、課題やポイントをさらに焦点化させる。観察したことを自分の言葉で伝えられない場合は、キーワードを羅列化したり、互いの発言を参考にしてまとめられるようにする。

(4) 学習指導上の工夫

- ① 前時の簡易ゲームを撮影した動画を用いて、チームの課題を発見できるようにする。
- ② 空間を作り出すなどの動きに効果的な練習動画をタブレット型PCに入れ、いつでも参考にできるようにする。

(5) 準備物

学習カード 筆記用具 タブレット型PC バasketボール

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問	形態	指導上の留意点	評価
導入	○集合 整列 ○あいさつ・出席確認・健康観察 ○準備運動 ○本時のねらいと学習内容の確認		○授業開始までに用具の準備を終える。 ○本時のねらいや内容を説明する。 ○前時で撮影した動画を基にチームの課題を発見することと、課題を解決するための練	

			習方法を考えることが本時のねらいであることを伝える。	
展 開	<p>○チームごとにパス・ドリブル・シュート練習（5分）</p> <p>【活動Ⅰ】 タブレット型PCを用いた課題の確認と課題解決練習の選択</p> <p>①各自でチームの課題を見付ける（5分）</p> <p>②全員が意見を出し合いチームでまとめる（10分）</p> <p>【活動Ⅱ】 チームの課題を解決するための練習（20分）</p>	チーム	<p>○事前に練習メニューを考えておくように指示をする。</p> <p>○前時の簡易ゲームを撮影した動画を確認して、空間を作り出すことができているかについて、気付いたことを各自学習カードに記入させる。その後、チームの課題と課題を解決するために必要な練習について考えて記入させる。</p> <p>○全員が意見を出し合い、チームの課題と課題を解決するために必要な練習についてチームでまとめさせる。</p> <p>○他チームとコミュニケーションを取りながら、練習場所を確保する。</p>	【評価】 思考・判断・表現 (学習カード)
ま と め	<p>○整理運動・用具の片付け</p> <p>○本時のまとめ</p> <p>健康観察</p> <p>授業の振り返り</p> <p>次回の授業確認</p>	一斉	<p>○けがや体調の確認をする。</p> <p>○何人かに発表させる。</p> <p>○本時で得た、新しい課題を基に9時間目のゲームでは、その課題解決を目標にゲームを行わせる。</p>	

(7) 板書計画 (特になし)

(8) 学習カード (記入例)

1 学年 バスケットボール 学習カード (8 時間目)

組	番	氏名
---	---	----

学習の目標

空間を作りだすなどの動きについてチームの課題を発見し、課題を解決するために必要な練習方法を考え、他者に伝えることができるようにする。

● 前時の動画を確認して気付いたこと【自分の意見】

● チームの課題

Bと評価する例

ディフェンスのいないところに動いて、パスをもらう。

※パスが繋がらない要因を、「ボールを持たない動き」のみに視点を当てて課題を見いだしている。

Aと評価する例

パスを出したら素早くディフェンスから離れたところに動く。

※パスが繋がらない要因を、学習した「ボール操作」と「ボールを持たない動き」の2点に分けて考察し、適切に課題を見いだしている。

● 課題を解決するために必要な練習

Bと評価する例

3対2, スクリーンプレーの練習

※提示された練習方法の中からチームの課題に応じて選択している。

Aと評価する例

3対3 (4対4, 5対5) で、ドリブルを使わずにパスだけでゴールに向かう練習【パス&ラン】

※ゲーム場面を想定しながら、つまづいている場面を取り出して、練習方法を考えている。

○ 前時の動画を確認して気付いたこと【他者の意見】

○ チームの課題

○ 課題を解決するために必要な練習

◎ チームの課題

◎ 課題を解決するために必要な練習

保健体育科（科目保健） 事例3
 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名
 健康の考え方

内容のまとめり
 (1) 現代社会と健康
 ア 現代社会と健康について理解を深めること

1 単元の見目標

- (1) 国民の健康課題について、我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して理解ができるようにする。また、健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて理解ができるようにする。
- (2) 国民の健康課題に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それを表現することができるようにする。
- (3) 国民の健康課題について、関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国民の健康問題について、我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通じて理解したこと、健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②疾病や症状の有無を重視する健康の考え方や、生活の質や生きがいを重視する健康の考え方などを例として、健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていること、免疫、遺伝、生活行動などの主体的要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ③健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であること、適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していること、健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	①現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ②国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理できている。	①国民の健康課題について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画

時	学習内容・活動	評価			
		知	思	態	方法
1 国民の健康課題	<p>我が国の死亡率, 受療率, 平均寿命, 健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して, 国民の健康課題について, また健康水準, 及び疾病構造の変化には, 科学技術の発達, 及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて理解することができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康指標について確認する。 学習のねらいを知る。 様々な健康指標を通して, 社会状況の変化との関連性に気付き, 国民の健康課題を考える。 グループで深めた意見を整理し, 健康指標から考えた健康課題について発表する。 本時の学習のまとめをする。 	①	①		<p>(学習活動3) 我が国の死亡率, 受療率, 平均寿命, 健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して, がん, 生活習慣病, 感染症, 精神疾患及び少子高齢化社会における健康課題があること, 健康水準, 及び疾病構造の変化には, 科学技術の発達, 及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることを言ったり書いたりしている内容等を【観察・発言・ワークシート】で捉える。(知—①)</p> <p>(学習活動4) 現代社会と健康における事象や情報などについて, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している状況等を【観察・発表・ワークシート】で捉える。(思—①)</p>
2 健康の考え方と成り立ち	<p>疾病や症状の有無を重視する健康の考え方や, 生活の質や生きがい重視する健康の考え方などを例として, 健康水準の向上, 疾病構造の変化に伴い, 個人や集団の健康についての考え方も変化してきていること, 免疫, 遺伝, 生活行動などの主体的要因と, 自然, 経済, 文化, 保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて理解することができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康に関わる要因について確認する。 学習のねらいを知る。 前回の資料から, 健康についての考え方の変化, ヘルスプロモーションの考え方について, 確認する。 3での学習を基に, 生活の質の向上に向けての課題を考え, 発表する。 本時の学習のまとめをする。 	②	②		<p>(学習活動3) 健康水準の向上, 疾病構造の変化に伴い, 個人や集団の健康についての考え方も変化してきていること, 免疫, 遺伝, 生活行動などの主体的要因と, 自然, 経済, 文化, 保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。(知—②)</p> <p>(学習活動4) 国民の健康課題について, 我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し, 生活の質の向上に向けて課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している状況等を</p>

					【観察・ワークシート】で捉える。(思—②)
3 健康の意保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり	<p>健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であること、また、適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることについて理解することができるようにする。健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについて理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な事例について、自分ならどう行動するかを考える。 2. 学習のねらいを知る。 3. 意思決定、行動選択の要因となる環境について確認する。 4. 国民の健康課題の解決に必要な社会環境の整備について考え、発表する。 5. 本時の学習のまとめをする。 	③	①	<p>(学習活動1・3) 健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、意思決定や行動選択により自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であること、適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していること、健康を保持増進するための環境には、自然環境、および政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。(知—③)</p> <p>(学習活動4) 国民の健康課題について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。(態—①)</p>	

4 観点別学習状況の評価

単元の評価規準に照らし、「十分満足できる」状況(A)、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)により評価を行う。

(1) 観点別評価の実際

◎「知識・技能」の評価の実際 例) 1 国民の健康課題

◇単元の評価規準：

我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して、がん、生活習慣病、感染症、精神疾患及び少子高齢化社会における健康課題があること、健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることを言ったり書いたりしている。

→観察や発言、ワークシートに書いてある内容から、判断していく。

◆「十分満足できる」状況(A)にあると判断するポイント

現代の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。また、健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、具体例を挙げて理解したことを言ったり書いたりしている。また、他の学習や生活の場面でも活用できる概念を理解している。

◆「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への手立て

- ・このような状況は、健康課題や健康水準、及び疾病構造の変化について、学習内容が定着していないことが原因として考えられるため、資料やグラフについて説明を加えながら、身近な事例を示したり、必要に応じて学習を振り返らせたりして個別に説明する。

◎「思考・判断・表現」の評価の実際 例) 1 国民の健康課題

◇単元の評価規準:

現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。

→観察や発表、ワークシートに書いてある内容から、判断していく。

◆「十分満足できる」状況 (A) にあると判断するポイント

現代社会における国民の健康に関する対策について、学習したことを基に、自分たちや身近な社会生活と関連付けたり、理由を付け加えたりしながら、具体的な課題や対策について説明している。

◆「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への手立て

このような状況は、現代社会における国民の健康について、具体的な課題や対策が思い付かないなどが原因として考えられる。そのため、教師が教科書やグラフの読み取りを補足したり、具体的な課題や対策を例示したりする。

◎「主体的に学習に取り組む態度」の評価の実際

例) 3 健康の意保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり

◇単元の評価規準:

国民の健康課題について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。

→観察や発表、ワークシートに書いてある内容から、判断していく。

◆「十分満足できる」状況 (A) にあると判断するポイント

国民の健康課題を解決する方法を考える時に、前時までに学習した概念的な知識と自分たちの生活や社会全体とを結び付け、試行錯誤して自らの学習を調整しながら、粘り強く取り組んでいる。

◆「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への手立て

このような状況は、国民の健康課題の解決と自分たちの生活が結び付かないといった原因が考えられるため、一つの活動を例に挙げて説明する。

(2) 評価結果を総括する評価例

①評価結果のA, B, Cの数を総括する評価例

観点 \ 時間		1	2	3	総括
生徒1	知・技	A	B	A	A
	思・判・表	A	A		A
	態度			A	A
生徒2	知・技	C	C	B	C
	思・判・表	C	A		B
	態度			B	B

・単元の総括については、Aが半数を超える場合にはA、Cが半数を超える場合にはC、それ以外にはBとする考え方に立って総括を行った。例外として、AとCが同一観点に混在する場合は、Bに置き換えて集約している。(例: AとCが各一つ → Bが二つ)

・「AABB」の総括結果をAとするかBとするかなど、同数の場合や三つの記号が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ決めておく必要がある。

・「知識・技能」、「思考・判断・表現」については、各授業後や単元終了後にワークシートや定期考査等からも評価することで、評価の信頼性を高めることができる。

②評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて総括する評価例

観点		時間		1	2	3	平均	総括
		1	2					
生徒1	知・技	3	2	3			2.67	A
	思・判・表	3	3				3.00	A
	態度			3			3.00	A
生徒2	知・技	1	1	2			1.33	C
	思・判・表	1	3				2.00	B
	態度			2			2.00	B

- ・評価結果A, B, Cを, A=3, B=2, C=1のように数値によって表して, 平均することで総括することができる。
- ・総括の結果をBとする範囲を $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$ とすると, 平均値が2.5を上回る場合はA, 平均値が1.5未満の場合はCとなる。

③評価結果のA, B, Cを数値で表し, 達成度で総括する評価例

観点		時間		1	2	3	達成度	総括
		1	2					
生徒1	知・技	3	2	3			8/9→89%	A
	思・判・表	3	3				6/6→100%	A
	態度			3			3/3→100%	A
生徒2	知・技	1	1	2			4/9→44%	C
	思・判・表	1	3				4/6→66%	B
	態度			2			2/3→66%	B

- ・評価結果A, B, Cを, A=3, B=2, C=1のように数値によって表して, 達成度で総括することができる。
- ・総括の結果をAは達成度83%以上, Bは達成度82~51%, Cは50%以下となる。

【保健体育部会作成委員】

佐藤 充伸	宮城県教育庁保健体育安全課指導主事
齊藤 裕美	宮城県仙台第二高等学校教諭
早坂 功多	宮城県宮城第一高等学校教諭
半田 佳之	宮城県工業高等学校教諭